

### 令和3(2021)年度卒業生 学習成果アンケート結果

本学現代子ども学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める「使命感」「総合的な子ども理解」「コミュニケーション・課題解決」「ICT活用」といった資質・能力を、「学習成果アンケート」によって把握してきた。

以下に、令和2(2020)年4月に入学し、令和4(2022)年3月に卒業した令和3(2021)年度卒業生の学習成果を中心に述べる。なお、回収率は100%(161名)である。

「学習成果アンケート」は学内情報ポータルサイト〔KCN(Keiai Campus Navigator)〕を活用し、スマートフォンを用いて回答させている。選択肢の「よくできている」「できている」を統合し「あてはまる」群、「あまりできていない」「できていない」を統合し「あてはまらない」群とした。表中の人数と%は、「あてはまる」群の数値を示す。

「使命感」の下位カテゴリーとして「社会的責任」「自己管理」「生涯学習」を設けた。「総合的な子ども理解」には「保育に関する知識」「保育技術」「保育実技」を、「コミュニケーション・課題解決」には、「コミュニケーション・スキル」「チームワーク」「リーダーシップ」「課題解決力」を、それぞれ下位カテゴリーとして設けた。さらに「ICT活用」も設けた。

「総合的な子ども理解」「ICT活用」の項目については、1年生に回答を求めるには高度すぎる項目もあるが、学習成果の評価を継続的(入学時・卒業時の2回)に実施し、達成状況の推移を把握すること、あるいは、学生に自己評価する際に卒業までの達成目標として意識させること等をねらいとし、あえて実施している。

令和3(2021)年度卒業生の学習成果アンケート結果について、「使命感」と「コミュニケーション・課題解決」について述べる。入学時から「使命感」の「社会的責任」「自己管理」、及び「コミュニケーション・課題解決」の「コミュニケーション・スキル」「チームワーク」は評価が高い。教育者・保育者を目指すという明確な意思と自覚を持っており、思いやりを持って他者と協働することができることと自己評価していることがわかる。これは、本学のアドミッション・ポリシー①「教育者・保育者を目指す明確な意思をもち、生活面・健康面での自己管理ができ、学び続けることのできる人」や、同③「対人関係能力に優れ、他者と協働し思いやりをもって子どもたちと関わることができる人」と合致している。

一方で、「生涯学習」の項目である「読書をして幅広い知識や教養を得ている」「資格を意欲的に取得している」は「あてはまる」群が25~30%台と低いが、メディアセンター委員会や学生の図書係を中心にさまざまな読書推進活動を実施しており、年間来館者数を増やしていることから、成果を上げている。

また、「保育に関する知識」「保育技術」「保育実技」については、入学時からある程度

高く、本学のアドミッション・ポリシー②「日頃より教育・保育に関する事柄に広く関心をもち、子どもの成長・発達について理解を深めようとする態度をもっている人」と合致している。さらに、卒業時に大きく能力を伸ばしており、授業や実習を通して身につけたものとする。

また、「コミュニケーション・課題解決」の「リーダーシップ」項目である「人前に立ち、皆の意見をまとめられる」や「課題解決力」の項目である「反省や経験を生かせる」「自己の考えを論理的にわかりやすく他者に伝えられる」が、入学時はともに約40%と低いが、それぞれ確実に能力を伸ばしている。令和2（2020）年度から、全授業科目において、学習成果の一つである「コミュニケーション・課題解決」と各授業科目の内容との関連についてルーブリックを作成してシラバスに示し、より明確に評価できるようにしている。グループ・ディスカッションにおいてグループの意見をまとめ発表したり、テーマに沿って自分の主張を論理的にまとめ、他者にわかりやすく伝えるプレゼンテーションを行ったりする機会を増やし、教員がより具体的なフィードバックをしていくことで、「コミュニケーション・課題解決」の資質・能力育成を目指してきた。この資質・能力は、令和3（2021）年度入学生カリキュラムから開設された、初年次教育としての「敬愛スタートアップゼミ」（1年前期）での学びによっても育成されるものとする。さらに行事や委員会活動、クラス活動での協働により育まれるのではないかと考える。

アクティブ・ラーニングの推進についても、FD・SD研修において複数回取り上げる等、強化している。

ICT活用については、「Word(文書作成ソフト)を使える」「Excel(表計算ソフト)を使える」「PowerPoint（プレゼンテーションソフト）を使える」「パソコンや映像機器を活用したプレゼンテーションができる」の項目のすべてで、入学時より卒業時の方がかなり高くなっており、基礎科目「情報処理」（1年通年）や専門科目「教育方法」（2年半期）等による教育の効果がみられる。また、コロナ禍でのオンデマンド授業の実施を通して、Google Driveなどのクラウド・サービスや学内情報ポータルサイト〔KCN（Keiai Campus Navigator）〕の利用に習熟し、より一層のICT技術活用の可能性を目指す。

学習成果アンケート〔令和3（2021）年度 2年生 保育コース 161人〕

項目内容		あてはまる					
		2021年度		2020年度			
		人	%	人	%		
使命感	的責	保育者を志す者としての自覚がある	127	83.0	140	86.9	
		保育に対する高い志や情熱を持っている	125	81.7	147	91.3	
		子どもの最善の利益を意識している	125	81.7	133	82.6	
	自己管理	場面に応じて身だしなみを整えられる	131	85.6	149	92.6	
		場面に応じた言葉遣いができる	124	81.0	142	88.2	
		健康管理ができる	124	81.0	145	90.1	
		提出期限や集合時刻などのルールを守る	114	74.5	142	88.2	
		指示されなくても自分で考えて行動できる	110	71.9	113	70.2	
		自己の行動を振り返り改善できる	122	79.7	134	83.2	
	生涯学習	計画性を持って行動できる	96	62.7	92	57.2	
		読書をして幅広い知識や教養を得ている	64	41.8	42	26.1	
		資格を意欲的に取得している（認定絵本士、認定ベビーシッターなど）	122	79.7	51	31.7	
総合的な子ども理解	保育に関する知識	子どもの課題の解決に必要な能力やスキルを習得するように努めている	116	75.8	116	72.0	
		子どもの年齢に応じた心身の発達段階について理解している	120	78.4	90	55.9	
		子どもを取り囲む環境を整えることの重要性について理解している	130	85.0	136	84.5	
		子どもが基本的な生活習慣を身につけることの重要性を理解している	130	85.0	144	89.5	
		保育に関するニュースや時事問題に関心をもっている	118	77.1	133	82.6	
		保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の内容を把握している	90	58.8	47	29.2	
		子どもの発達の連続性を意識し、保育所・幼稚園・認定こども園と小学校との連携の重要性を理解して	123	80.4	90	55.9	
		発達障害等の特性の理解、及びそれらを援助する上での重要性を理解している	125	81.7	95	59.0	
	保育技術	子ども一人一人の性格や能力、興味・関心を理解しようとしている	130	85.0	147	91.3	
		一人一人の子どもを見ながら常に全体にも目を配ることができる	119	77.8	101	62.7	
		子どもにわかりやすいような話し方ができる	118	77.1	121	75.2	
		子どもの表情などから感情をとらえ、子どもの気持ちを大切にしたい援助ができる	126	82.4	118	73.3	
		子どもがルールを守るような援助ができる	123	80.4	106	65.9	
		子どもの気持ちを汲んでけんか等に対応できる	111	72.5	78	48.5	
	保育実践	子どもの興味・関心を踏まえた遊びを考えられる	116	75.8	90	55.9	
		子どもが手遊び等を楽しめるような援助ができる	120	78.4	84	52.1	
		ピアノなどの楽器を使い、子どもが楽しんで歌えるような援助ができる	109	71.2	57	35.4	
		子どもの発達に即した良質な絵本を選べる	119	77.8	69	42.9	
		子どもが楽しめるような絵本の読み聞かせができる	119	77.8	60	37.3	
		子どものやってみようという気持ちを大切にしたい製作活動の援助ができる	119	77.8	93	57.7	
	コミュニケーション力	コミュニケーションスキル	子どもが楽しんで運動遊びが行えるような援助ができる	118	77.1	96	59.7
			自ら進んで明るく挨拶ができる	132	86.3	149	92.5
			他者の意見を受け入れられる	132	86.3	154	96.0
			他者の立場に立って物事を考えられる	131	85.6	145	90.1
ワークショップ		他者と良好な人間関係を築くことができる	130	85.0	150	93.1	
		組織や集団の一員として自分の役割を果たすなど、自覚を持って行動できる	129	84.3	150	93.2	
		報告・連絡・相談ができる	128	83.7	147	91.3	
		目的の達成のために積極的に意見を出せる	112	73.2	106	65.9	
課題解決		人前に立ち、皆の意見をまとめられる	95	62.1	63	39.2	
		広い視野をもち、臨機応変に対応できる	117	76.5	106	65.9	
		反省や経験を生かせる	126	82.4	138	89.2	
		物事の問題点や課題を見つけられる	123	80.4	128	85.9	
ICT活用	自己の考えを論理的にわかりやすく他者に伝えられる	104	68.0	72	49.2		
	多様な意見を統合してアイディアを生み出せる	107	69.9	85	52.8		
	Word（文書作成ソフト）を使える	118	77.1	71	44.1		
	Excel（表計算ソフト）を使える	79	51.6	49	30.4		
	PowerPoint（プレゼンテーションソフト）を使える	117	76.5	64	39.8		
	SNSなどをモラルに則って効果的に活用できる	128	83.7	143	88.8		
「情報リテラシー」の意味を理解している	112	73.2	79	49.1			
パソコンや映像機器を活用したプレゼンテーションができる	103	67.3	43	26.7			

学習成果アンケート〔令和3（2021）年度 1年生 初等教育コース 13人〕

項目内容		あてはまる					
		2021年度		2020年度			
		人	%	人	%		
使命感	責	教育者を志す者としての自覚がある	13	100.0	13	100	
		教育に対する高い志や情熱を持っている	12	92.3	12	92.3	
		子どもの最善の利益を意識している	12	92.3	12	92.4	
	自己管理	場面に応じて身だしなみを整えられる	12	92.3	13	100	
		場面に応じた言葉遣いができる	12	92.3	12	92.3	
		健康管理ができる	9	69.2	12	92.4	
		提出期限や集合時刻などのルールを守る	10	76.9	11	84.6	
		指示されなくても自分で考えて行動できる	13	100	11	84.6	
		自己の行動を振り返り改善できる	13	100	12	92.3	
	生涯学習	計画性を持って行動できる	12	92.3	8	61.6	
		読書をして幅広い知識や教養を得ている	6	46.2	5	38.5	
		資格を意欲的に取得している（学校図書館司書教諭など）	9	69.2	6	46.2	
総合的な子ども理解	保育に関する知識	自己の課題の解決に必要な能力やスキルを習得するように努めている	11	84.6	8	61.5	
		読書をして幅広い知識や教養を得ている	6	46.2	5	38.5	
		資格を意欲的に取得している（学校図書館司書教諭など）	9	69.2	6	46.2	
		児童の学年に応じた能力の発達段階を理解している	11	84.6	1	7.7	
		学校生活における児童の行動について基本的な生活習慣等、指導すべき内容について理解している	12	92.3	2	15.4	
		教育に関するニュースや時事問題に関心をもっている	13	100.0	10	76.9	
	保育技術	学習指導要領の内容を把握している	8	61.5	2	15.4	
		児童の発達の連続性を意識し、保育所・幼稚園と小学校との連携の重要性を理解している	12	92.3	6	46.2	
		各学年の各教科等の指導法と内容についての概略を理解している	8	61.5	0	0	
		主体的・対話的で深い学びについて理解している	12	92.3	5	38.5	
		規律があり、かつ受容的な学級集団作りを進めることの重要性と基本的な指導方法を理解している	11	84.6	3	23.1	
		発達障害等の特性の理解、及びそれらの生徒指導上の重要性を理解している	13	100	4	30.8	
	保育実践	児童一人一人の性格や能力、興味・関心を理解しようとしている	13	100	10	76.9	
		生徒指導における個別指導と集団指導のかかわりとそれぞれの指導方法を理解している	10	76.9	3	23.1	
		児童の学年に応じた話し方ができる	12	92.3	7	53.8	
		トラブル等があった場合、児童の気持ちを共感的に理解したうえで指導できる	12	92.3	4	30.8	
		児童の理解の仕方と教材の本質をふまえた教材研究ができる	10	76.9	2	15.4	
		学習指導において、児童の興味・関心を踏まえた導入を考えることができる	10	76.9	2	15.4	
	コミュニケーション・課題解決	コミュニケーションスキル	板書の仕方や児童とのコミュニケーションの在り方等の基本的な事柄を押さえて授業ができる	11	84.6	2	15.4
			発言の仕方など授業のルールを大切に授業を進めることができる	11	84.6	4	30.8
			自ら進んで明るく挨拶ができる	12	92.3	12	92.3
		ウェビーム	他者の意見を受け入れられる	12	92.3	13	100
			他者の立場に立って物事を考えられる	13	100	13	100
			他者と良好な人間関係を築くことができる	11	84.6	13	100
ICT活用	リーダーシップ	組織や集団の一員として自分の役割を果たすなど、自覚を持って行動できる	11	84.6	13	100.0	
		報告・連絡・相談ができる	12	92.3	13	100	
		目的の達成のために積極的に意見を出せる	11	84.6	7	53.9	
	課題解決	人前に立ち、皆の意見をまとめられる	10	76.9	7	53.9	
		広い視野をもち、臨機応変に対応できる	11	84.6	11	84.7	
		反省や経験を生かせる	13	100	13	100	
ICT活用	課題解決	物事の問題点や課題を見つけられる	11	84.6	11	84.6	
		自己の考えを論理的にわかりやすく他者に伝えられる	12	92.3	9	69.2	
		多様な意見を統合してアイデアを生み出せる	10	76.9	8	61.5	
	ICT活用	Word（文書作成ソフト）を使える	12	92.3	8	61.5	
		Excel（表計算ソフト）を使える	9	69.2	5	38.5	
		PowerPoint（プレゼンテーションソフト）を使える	12	92.3	6	46.2	
ICT活用	ICT活用	SNSなどをモラルに則って効果的に活用できる	11	84.6	11	84.7	
		「情報リテラシー」の意味を理解している	11	84.6	8	61.6	
		パソコンや映像機器を活用したプレゼンテーションができる	11	84.6	5	38.5	
		児童がSNSをモラルに則って利用できるよう指導することの重要性について理解している	10	76.9	7	53.9	
		Scratch等の子ども向けプログラミングソフトを使える	8	61.5	1	7.7	